ひびき

２００７．１１．９
第１学年 学年だより　NO．３７

【 学年スローガン 】
～ 響きあい 高めあう １年生 ～

～　命を尊ぶ心･･･ 思いやりの心　～

先日、東京から石岡史子先生をお迎えし、訪問授業「ハンナのカバン」を実施しました。命のつながりの奇跡に感動したみなさんも多かったことと思います。アウシュビッツの生還者ハンナの兄、ジョージ・ブレイディさんはこう語っています。

「妹ハンナの人生は終わってはいないのです。石岡さんのおかげで新しい人生を歩み始めているのです。今、史子とハンナの思いを詰めたカバンは世界中の学校を回って、先生として子どもたちの前に立っているからです。実は、ハンナは幼いころから、町の学校の先生になりたかったのです･･･。」

そのカバンは、**～ 差別や偏見を乗りこえ、思いやりのある世界をつくっていきましょう ～** と、圧倒的な力を放ってみなさんの前にあったような気がします･･･。

○ 子どもたちから　　【「ハンナのカバン」に寄せられた感想より 】

今日は、わざわざ東京から来て下さった石岡さんに話を聞いて、ハンナのカバンについて教えてもらいました。先週、浅田先生が作ってくれたスライドショーで、よくわかっていたつもりだったけど、実際にはほんのわずかなことしかわかってなかったようです。なんでユダヤ人なの？ どうしてヒトラーが政権を握ったの？と、次々に疑問が出てきます。でも、今日石岡さんに話を聞いて私が疑問に思っていたことのほとんどが解決しました。石岡さんの説明はすごくわかりやすく、本当に上手でした。そして、ハンナのカバンを実際に持ってきて下さって、すごく貴重な物を見させてもらえました。あのカバンに書いてある名前や誕生日、数字を書く意味は、最初自分の好きで書いたんだと思いました。でもしっかりした理由があって「へ～、そうなんだ。」と大きくうなずきました。ハンナやハンナの兄のジョージは小さいのによく頑張ったなと思います。ジョージは１６歳だったから助かって、何とか命は救われたけれど、いっぱい働かされて、すごくかわいそうでした。でも、がんばって耐えて、今でも元気に生きていると聞いてすごく驚きでした。やっぱりこういう辛い体験をした人は、心がきれいだなと改めて思ったことがあります。それは、ジョージに中学生が「ヒトラーを憎んでいますか」という質問に答えた時です。「憎しみからは何も生まれない。」という言葉に私は感動しました。ジョージはドイツの車に乗るし、ドイツの友達もたくさんいるのはすごいなと思いました。私がそういう体験をしたら、一生ドイツを恨んだりするなと思いました。今日の授業を受けて、先週よりもホロコーストのことがよくわかったし、道徳的なことも学べてすごくよかったです。石岡さんありがとうございました。　（１組　根笹友菜さん）

ハンナの物語を聞いて、とても感動しました。ハンナは、毎日両親たちと幸せに暮らしていたのに、たった一人の人が言ったことによって、ユダヤ人というだけで、つらい生活を送るなんて、僕には耐えられないと思いました。でも、ハンナやジョージさんは収容所に入れられも、いつか普通の生活に戻ってまた会えると信じて頑張っていて、すごいと思いました。でも、そんな夢を踏みにじるように、ユダヤ人が次々と殺されていき、僕は人間という人種の１つなのに同じ仲間なのに、何で人を簡単に殺せるのかと思いました。こんなの許せないと思います。でも、ハンナの兄ジョージさんは「憎しみからは何も生まれない」と言っていて、確かに憎しみをもっても、ヒトラーたちと同じ過ちを犯してしまうだけだと思いました。石岡先生とジョージさんは、世界の人たちにハンナの事やホロコーストの事を伝えているので、これからももっと伝えてもらって、知ってもらって欲しいと思いました。そして、僕たちに何ができるか、何をやればいいかを考えていこうと思いました。（３組 中島雅斗さん）

うら面の続きも見てください

○ 保護者のみなさまから　　【「ハンナのカバン」に寄せられた感想より　】

NPO ホロコースト教育センターの方をお迎えして、貴重なお話を聞かせていただきました。何でホロコーストは起こってしまったのでしょうか･･･。始まりは、たった一人の声であったのに何故そこまでの悲劇が生まれたのか、それは大変恐ろしく、二度と起こしてはいけない事だと思います。でも、決して過去の出来事ではないと思います。ほんの少しの勇気、しらんぷりする事は簡単ですが、「おかしい」と一言いえる勇気を持ち続けてほしい。自分はどうかと思うと難しいかもしれない。でも、そのように言えた人に一歩でも近づけるようになりたいと思う。そして、そう思う人の輪をどんどん広げてほしい。浅田先生もおっしゃられていたように、多くの生き物の中で人類はたった一種類である。同じ人間として助け合って生きていきたい。ハンナやアンネみたいな人々をこれから増やさないように、杉原千畝さんやデンマークの人々など、勇気ある人、自分を信じながら･･･。
“一人の命を救うことは、全世界を救うことと同じ”　　（１年生 保護者）

学校からのお手紙で「ホロコースト」について学ぶと知った時、一番初めに「アンネの日記」じゃなくて「ハンナのカバン」なんだと思いました。「ハンナのカバン」は読んだ事がなかったので、図書館で借りました。児童書なので一気に読めたのですが、途中何度もドキドキしたり、お兄ちゃんのジョージが日本でハンナのカバンにあった場面ではポロポロ泣けて仕方ありませんでした。できれば、この機会に息子にも読んで欲しいと思って、他の本と並べて彼の枕元に置きました。が、「ふ～ん」とか一瞬目にとめたようですが読んだ様子でもありませんでした。でも、今日学校から帰ったら「ライダーやらなくていいけど『ハンナのカバン』の感想書くのが宿題なんだよ!」とか言いながらも、本をパラパラひろい読みしていました。

史子とジョージ(世界中の学校で)

私も今日は、石岡さん本人がおみえになるとは思ってもみませんでしたし、本当に「ハンナのカバン」に会えるとも思っていませんでした。そんな所にも石岡さんが中学生にホロコーストを伝えたいという強い思いを感じました。私もそうですが、子供達も石岡さんの話にすごく引き込まれていました。それが最後に「石岡さんに質問がある人」の時、手を挙げる子が多かった事にも表れていると思いました。石岡さんの話はなぜ魅力的なんだろうと考えたのですが、それは石岡さんの熱いメッセージが子供達に伝わったから、そして、石岡さんの話し方がとても子供達に寄り添っていたからだと思います。石岡さんは私が想像していたよりも、若くてきれいな方でした。彼女のように若くてきれいな母ちゃんにはなれませんが、「方程式の追試なんだけど、わかんねぇんだよ!」とわめきちらす息子に今よりは少し寄り添って、一緒に方程式を解く母ちゃんにならなきゃなとも思っていました。話の中にもありましたが「人一人救う人は、世界を救う」そして、「憎しみからは何も生まれない」遠い世界で昔あった事ではなく、身近な日常の中にある事だと思います。そんな事に関心をもって、平和な未来の為に、今どうしたらいいのか、子供達も大人もたくさん考えて感じることのできる授業でした。
最後になりましたが、いつも子供達のために素敵な授業をして下さる先生方に感謝します。ありがとうございます。そして、これからも子供達をよろしくお願いします。残念ながら、来週の校外学習には参加できませんが、一人一人が何かを感じてきて欲しいと思います。てるてる坊主、つくっておきます･･･。　　（１年生 保護者）

今日は、私自身が学びたいという気持ちがあり参観させていただきました。「命のビザ」校外学習の取り組みにまず感動し、子ども達の学ぶ姿を一緒に学ぶ中で、是非みてみたいと思いました。二度と同じ事を繰り返してはならない行為“虐殺”について、そして、差別・人権について考えさせられました。何よりも若い講師の石岡先生が、ハンナのカバンとの出逢いから様々な真実を知り、その人々の生きる様をわかりやすく伝えて下さったことに感心しました。世界の国々を渡り歩いて、この活動をしてみえる彼女の勇気ある行動に、子ども達は何を感じたのか是非知りたいです。そして、世界でたった一人のかけがえのない命。生きるものすべてに対して価値を見出し、尊重できる人間として育ってもらうためにも、今回の取り組みは是非続けて欲しいと思いました。先生の言葉の中で「一人が今ではこんなにたくさんの家族なんだよ。こんなにつながっていくんだよ。」「恨んでなんかいない。憎しみからは何も生まれてこない。」という言葉が忘れられません。命のつながり、生きることの尊さはもちろん、ヒトラーの行動に対しても、そのように答える生き残ったユダヤ人の人々の想いをしっかりと胸に刻んで欲しいと思います。先生方、素晴らしい取り組み本当にありがとうございます。
（１年生 保護者）

※ 号外に続きます

響き

２００７．１１．９
第１学年 学年だより　ＮＯ．３７(号外)

【 学年スローガン 】
～ 響きあい 高めあう １年生 ～

○ 保護者のみなさまから　【「ハンナのカバン」に寄せられた感想より 】

「ハンナのカバン」の話は、恥ずかしながら初めて聞く話でした。アンネ・フランクの話は有名ですが、今回の講演で１５万人という子供達が殺されていき、その一人一人にきっと、アンネやハンナの様な物語があるのだろうと考えさせられました。戦争やテロでは、何人という数字だけで亡くなった人が語られていることが多いと思いますが、それぞれ大切な一人の人間であるという事を忘れてはいけないと思います。人は集団になった時、冷静さや正義感、物の善悪までも失ってしまうことがあります。いじめや災害時の暴動などもそうです。しかし集団は又、大きな大きな力を秘めている事も事実です。今回の講演で紹介されたデンマークの様に一人一人が正しい考えで行動すれば集団は大きな力になるのです。私達は今、個人個人で正しい行動をしているでしょうか。「自分に関係ないから」「正しい事を言ったら恥ずかしいから」「みんながそうしているから」と、悪い事は悪いと言えずに過ごしている事が、大人の社会にもたくさんあると思います。そういった風潮が戦争までも引き起こしてしまったように思います。私達は、大人はもちろん子供達を正しい心で正しい行動ができる様に育てていかなければいけません。「人の嫌がる事はしない」「人の違いを理解し尊重する」それが出来れば、いじめも戦争も起こりません。戦争は二度と起こしてはいけない過ちです。　（１年生 保護者）

“一人の命を救う事は、世界の命を救う”（確か、こんな言葉でしたよね？） ハンナの兄ジョージをはじめ、生きのびたユダヤ人からつないだ新しい命･･･。ジョージの新しい家族の集合写真を見て、次の歌を思い出しました。

～ 誕生日って ～
たんじょうびって　何の日
感謝する日
君が うまれてきたこと　感謝する日
宇宙がうまれて　地球がうまれて　命がうまれて
おじいちゃん　おばあちゃん　おとうさん　おかあさん　命がつながって
君がうまれてきたんだね　ありがとう！
不思議なこと　素敵なこと　感謝する日
みんなに　みんなに　ありがとう　感謝する日

この歌は、お誕生日会で必ず歌います。本当にこの通りだなと思いました。　（１年生 保護者）

「命のビザ」事前学習会に参加し、深い感銘を受けました。杉原千畝氏の「6000 人の命のビザ」の著書に釘付けになったのは、今から 7 年程前のことです。こんな素晴らしい日本人がいたという事実を知り、心を奪われました。“一人の命を救うことは、全世界を救う”という言葉の意味を２回の授業で理解できたような気が致します。
「ハンナのカバン」についてのいろいろな事実を講演して下さいました石岡先生、生徒が退屈しないように、真実を･･･映像を通して説明され、時間のたつのを忘れてしまう程でした。ホロコーストの真実を忘れることのないように、歴史に学び、未来の歴史をつくり上げて行く生徒達に「平和な社会」「争いのない社会」が続いていくように願わずにはいられません。学校側、先生方のご配慮に感謝致します。　（１年生 保護者）

多くの感想を寄せていただき、誠にありがとうございました。１年生職員一同

【　１１月 第３週の予定　】Ａ週時間割　給食当番の確認をしておきましょう。

１１月	朝学	１限	２限	３限	４限	５限	６限	ＳＴ後
１２日（月）	朝礼	学年集会	月２	月３	月４	月５	**水４**	部活動
１３日（火）	学習	火１	**木３**	**木４**	火４	水５	ST 後下校	部活動なし
１４日（水）	**「命のビザ」校外学習（岐阜県八百津町）８：２０学校整列完了**							部活動
１５日（木）	学習	木１	木２	**火２**	**火３**	木５	木６	部活動
１６日（金）	学習	金１	金２	金３	金４	金５	学活	部活動

１１月の下校時刻：１６時３０分